

私は二れからの時代においても、新聞や雑誌
 確かに、インターネットの広まりにより、
 手出来るようにな、た。今やインターネット
 言えるだろう。しかし、インターネットにも
 んれを自由に使いこなせる環境にないければ
 ドの問題である。経済的に豊かな日本でも10
 上手く使いこなせていない人は多い。世界規
 格差—格差社会—が問題とな、ているが、イ
 らす恐れがある。また、インターネットは不
 が流布し、んの中に正確でない情報も流入、て
 め、間違、た情報が流れることもあり、私達
 ない。つまり、インターネットの情報だけに
 では、ここで新聞、雑誌は二れからの時代
 入るのは、インターネットと相互に弱点を補
 や雑誌はインターネットに比べてどんな人々で
 道までに多少の時間が空くことが多いのぞ。
 られるとい、たメリットを有していると思ら
 ることも多々あるのだが、情報の受け手であ
 るメディアがある。た方が、多様な物の見方が
 の特徴を良く認識しあ、て、協力しあうこと

は必要だと思う。
 私達は必要な情報を簡単に、そして素早く入
 は私達にとって欠かせないメディアである。と
 弱点は幾つかある。まず、インターネットは
 意味がないという点、つまりデジタルデバイ
 ソコを有さない人は多いし、持、ていても
 模で見ればなおさらである。現在、経済的な
 ンターネットの普及は情報面での格差をもた
 特定多数の人が使えるがゆえに、多くの情報
 いる可能性が多々ある。速報性を重視するた
 は情報の取扱選択を絶えず行ねなければなら
 頼るのは危険が潜んでいるのである。
 たどのようなのであれば良いのだろうか。私達が
 い合いながら共存していく体制である。新聞
 も手に入れたすから、たり、事が起まつから報
 物事を多面的に考察しより正確な情報を伝え
 。もちろん、新聞や雑誌の情報が間違、てい
 る私達にと、ては様々な角度から情報を伝え
 出来て有意義だろう。各メディアは入れられ
 が二れから大切になるのではないが。